



TITLE:

<批評・紹介>東洋農業經濟史研究  
小野武夫博士還曆記念論文集刊  
行會編

AUTHOR(S):

米田, 賢次郎

---

CITATION:

米田, 賢次郎. <批評・紹介>東洋農業經濟史研究 小野武夫博士還曆記念論文集刊行會編. 東洋史研究 1950, 10(6): 517-517

ISSUE DATE:

1950-02-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/145862>

RIGHT:

皇帝——武則天秉政——の一節をかいつまんでみると、次のやうな調子である。封建社會では男子が中心だが、武則天は中國史上唯一の女皇帝である。彼女は極めて聰明、吏治は清澄で、封建統治者の御用歴史學者でさへ、彼女が有能な女性であることを認めないわけにはいかなかった。しかし缺點もなかなか多く酷吏の周興や來俊臣を任用して、大規模な特務機關を組織した。……武則天の政治は女子の才能が決して男子に比して低くないことを事實を以つて證明したのであるが、しかし彼女は女子一般の地位を變改するやうなことは全くなかつたし、また出來もしなかつた。封建社會においては男女の地位平等のごときは、原來想像だも許されないことだったのである。他の節の模様も大體これによつておわかりになることと思ふ。

〔日比野丈夫〕

### 東洋農業經濟史研究

小野武夫博士還曆紀念  
論文集刊行會編

昭和二十三年五月 日本評論社刊  
A 2 判 一八一頁 價一〇〇圓

本書は「日本農業經濟史研究」「西洋農業經濟史研究」と共に農業史の大家小野博士の還曆紀念の三部作をなすものである、收むる所のは、加藤繁、滿洲に於ける大豆、豆餅生産の由來に就いて、柴三九男、古代支那農業史に於ける水の問題、藤井宏、明代龜田考、仁井田陞、支那近世同族部落の械闘、周藤吉之、清初に於ける圈地と旗地蠲量との

關係——特に畿輔旗地を中心として——。百瀬弘、津門保甲圖說に就いて——清代天津縣の農工商戶に關する一統計資料——。深谷敏鐵、李朝の民田について——朝鮮における土地所有の近世的性格。以上七氏の力作と其の偉業を目前に示すが如き博士の學蹟、年譜、著書、論文目錄とである。紙面の都合上各論文の批評は省略さしていただくが、いづれも戦前からの深い研究と緻密な考證を背景にち、所謂オーソドックスのものととして必讀の論文である。又、本書は東洋史と農業經濟學との兩者を結ぶ橋の役目を果すものであり、兩者の連繫が近時盛んとなつて來た社會經濟史の研究に與へる利益を考へる時には本書の持つ意義は更に増大しよう。然し其の役を果すには東洋史畑の人は論外として他の人々には少し縁の遠い感を懷しめはしないか、悪くゆくと東洋農業經濟史研究と言ふよりは東洋史農業經濟研究で終りはしないか（執筆筆者より見ても）尤も學界に於いては東洋史關係以外に中國の「農業社會史」が餘り興味が持たれてゐないから止むを得ないかも知れぬ。

〔米田賢次郎〕